

「三田市観光ビジョン（案）」に対する市民意見の募集結果と 意見に対する市の考え方について

1 実施概要及び結果

(1) 実施期間

令和3年2月1日(月)から令和3年3月2日(火)まで

(2) 閲覧方法

- ① 市ホームページ「意見募集（パブリックコメント）」での閲覧
- ② まちのブランド観光課（市役所本庁舎5階）、各市民センター、まちづくり協働センターでの閲覧

(3) 意見の提出方法

意見書（任意様式）に住所・名前・電話番号を記入し、郵送、ファクス、Eメール、持参のいずれかで提出

(4) 意見件数

18件（4人）

2 市民意見の概要と意見に対する市の考え方

(1) ビジョン(案)を修正するもの 4件

(2) ビジョン推進の参考とするもの 14件

【ビジョン（案）を修正するもの】

1 はじめに

	意見の内容	市の考え方と対応
①	<p>〔p4 (4)位置づけ (5)計画期間〕 観光ビジョンが先に策定され、観光ビジョンの内容を第5次総合計画に反映するという形(観光ビジョンが上位計画?)となっており、観光ビジョンと総合計画との位置づけが少し分かりにくいかと思えます。市施策の中での観光の位置づけはあくまで「まちづくりの方向性を定める」総合計画において示し、分野別の計画として観光ビジョンを定めるとの理解ではないのでしょうか。</p> <p>計画期間の1年目に、第4次総合計画を検証し社会情勢を反映とあり、令和3年にウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた見直し・改訂を予定しているものと推察しますが、コロナ禍における生活様式の変化、インバウンドの動向が不透明な状況(インバウンドが従来のように拡大するか?トレンドが変化するかなど)において、敢えてこの時期に策定される意図が分かりかねます。現在、ワクチン接種が始まり、日本を含めた世界の経済活動が漸進的に再開していく状況かと思えますので、それらを見極めたうえで、三田市としての観光施策の方向性をブラッシュアップしたほうがよいのではないのでしょうか。(また、第5次総合計画とも整合が図れると思いません)</p>	<p>本観光ビジョンは、第4次総計の観光理念、将来あるべき姿に基づきながら、昨今の観光を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、三田市の現状と課題を整理し、三田市が目指す観光振興の姿と、その実現のための中期的な観光政策の方向性を明らかにすることを目的としています。アフターコロナを見据えた具体的アクションの指針となる観光ビジョンを、いち早く策定することを目指しました。</p> <p>総合計画における観光理念や将来あるべき姿が大きく方針転換されることはないと考えますが、第5次総合計画が策定された時点で必要に応じて反映いたします。</p> <p>なお、ご指摘のとおり、コロナ禍での社会情勢の推移は、いまだ不透明な状況にはありますが、「人口減少に負けないまち」を目指す三田市にとって、移住定住促進と同様に交流人口の拡大は喫緊かつ重要な課題であり、観光施策の拡充はその有効手段としてとらえております。また、コロナ禍で変化した人々の意識や生活様式は本市観光には好機であると認識しており、アフターコロナを見据えて、今後の観光施策の指針となる観光ビジョンを直ちに実行することが必要だと考えました。</p>

3 三田市の観光の現状と課題

	意見の内容	市の考え方と対応
②	<p>〔P13【参考】三田市のイメージに対するアンケート〕 参考として出されていますが、たった41人から得たアンケート</p>	<p>従来の市民意識調査などの結果においても、三田の特徴を「自</p>

<p>を、計画に記載する理由をうかがえますか。他市の計画をご覧になられたらすぐわかると思いますが、データは 1000 人規模が普通です。有効回答に至らないものを考えても、申し訳ないですが 41 人では、「一体何のデータを取りたいのか」が疑問です。大学生の卒業論文レベル以下というか、自己満足レベルであって、とても計画内で公表するレベルではありません。修士論文、博士論文レベルでも、もちろん一般的な行政の計画レベルにおいても、数十人規模のアンケートをもって「アンケートの結果」を参考意見とはいえ記載することは、この計画の決裁を行った部長級も含めた認識を疑います。ちなみに、小学 4 年生の娘に「41 人からのアンケートを、三田市の市民の意見ですってというのはどう思う？」と聞いたら、「1 クラスやん。小学校全体の意見でもないと思う」とのことです。データを取ることそのものが税金を使う行為ですので、アンケート取得の際には取得の目的と人数には気を付けられたほうが良いと思います。また、もしこの計画のために取られたデータでないのであれば、出典や調査元を記載すべきです。</p>	<p>然豊か」と考える人が多くいることから、直近のアンケート結果を参考データとして引用したものです。しかし、ご指摘のとおり、参考資料としても十分なものでなかったと考えます。</p> <p>この度、「第 5 次三田市総合計画策定にかかる市民等意識調査」（令和 2 年 9 月 18 日～10 月 8 日に、市内在住の 18 歳以上の市民 3,000 人を対象として実施）の集計ができましたので、最新の調査結果を活用します。</p> <p>この市民意識調査において、三田市の魅力につながる「暮らしやすさの主な理由」について、暮らしやすい（暮らしやすい・まあまあ暮らしやすい）と答えた 1,435 人のうち、「自然環境」とした人が 889 人（62.0%）と最も多い結果となりました。また、「10 年後の三田市においてセールスポイントにできること」については、回答総数 1,516 件のうち、「自然が豊かであること」と回答した人が 410 件（27.0%）と最も多く、自然の豊かさを三田のセールスポイントと考える市民が多いことが分かりました。</p>
<p>③ 三田市の観光の強み・弱みについて、三田市のイメージに対するアンケート結果を用いておられますが、アンケート回答者数が 41 人とあまりに少なく、市内外の人の総意を代表しているとは言えないため、毎年、市が実施されている意識調査の結果を活用するなどして、市民の認識を明らかにできないでしょうか。（アンケート数が少ない上に、検討会議のメンバーもほとんどが事業者（かその代表）となっており、市民感覚と合っていない部分があるのではと感じるところがあります。例えば、本文 P14 に「市民が三田の魅力に気づいていない」「市民が三田を十分に楽しみきれていない」ことが三田市の課題と整理していますが、個人的な実感としてはそこまで言い切れないのではと思います。）</p>	<p>ご指摘のとおり、令和 2 年度の市民意識調査の結果が出ましたので、その結果を活用します。</p> <p>確かに三田の魅力に気づき楽しんでいる市民もおられます。一方で、観光ビジョン検討会議で意見も出たとおり、まだまだ三田の魅力に気づいていない市民もおられますので、来訪者だけでなく市民も対象とした取組みを進めてまいります。</p>

4 三田市の観光振興が目指す姿

	意見の内容	市の考え方と対応
④	<p>[p15]</p> <p>「4. 三田市の観光振興が目指す姿」では、一般論としての「観光まちづくり」の説明を除くと、記載されている論旨は「①三田市では観光まちづくりに取組んでいくこと」「②自分らしくゆったり過ごせるまち、何度も訪れたいくなるまちを目指すこと」の2点かと思いますが、抽象的で三田市が目指す将来像がイメージしにくいように感じます。（「住まうふるさと」「心のふるさと」を目指すことについては、異論はありませんが、全ての都市で当てはまることかと思えます。）観光は基本的にはビジネスであり、観光資源が豊富で基幹産業となっている都市とそうでない都市とでは、「観光まちづくり」に対するスタンスは異なると思います。三田市として「観光まちづくり」によって何を目指すべきか、もう少し具体的に補足されたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。あと、内容とは関係ありませんが、「三田市の観光振興が目指す姿」「三田市の観光振興は、・・・訪れたいくなるまちを目指します」など、「観光振興」が主語となっており、国語的に少し違和感があります。（あえてそうされているのでしたらすみません。）</p>	<p>「三田市が目指す将来像がイメージしにくい」、また、「観光まちづくりによって何を目指すべきかももう少し具体的に補足されたほうが分かりやすいのではないか」というご意見をふまえて、三田市の「観光まちづくり」の説明を次のとおり補足します。</p> <p>『市民は、これまで気づかなかった三田の暮らしの中にある地域の魅力を発見し、一年を通して多様な観光コンテンツを体験します（住まうふるさと）。観光客や来訪者は、阪神間からのアクセスの良さを生かして、いつでも気軽に訪れることのできる三田で、豊かな自然や様々な文化、観光資源を体験することでリフレッシュします（心のふるさと）。</p> <p>三田を訪れた観光客や来訪者が多様な三田の魅力に触れて、体験して、そして市民と交流することで、三田に愛着を感じ、三田が心のふるさととなることを目指します。</p> <p>こうした「着地型観光」を強化することで、観光を通じた経済活動を促進し、地域の発展を図り、三田のまちづくりに関わる人を増やすことで、まちに活力と経済の循環による豊かさを創出します。』</p> <p>また、ご指摘の表記の誤りは、「三田市が目指す観光振興の姿」「三田市は、観光振興において・・・」と訂正します。</p>

【ビジョン推進の参考とするもの】

1 はじめに

	意見の内容	市の考え方と対応
①	<p>[p2 (1)策定の背景、(2)策定の目的]</p> <p>計画の策定背景、目的について拝見しました。そもそも論なのですが、三田市が観光ビジョンを策定しなければならないという背景や目的がわかりません。計画を策定するという行為は、少なくとも数百万円を費やす行為です。行政のプロにこういう意見を申し上げるのは釈迦に説法になるので恐悅ですが、自治体財政は、そもそも全国的にバブル崩壊後、ほとんど伸びていない中で高齢化に伴う扶助費の増加を賄うため、義務的経費である人件費等の減少が続いていることはすでにご存じであると思います。そのような中で、少なくとも数百万円の市費を投じて（コンサルではなく、職員による策定であるとしても、その職員の人件費が策定経費です）なぜ、いま、観光ビジョンを三田市が策定しないといけないのか、という切迫性や必要性が伝わってきません。国や県が推進しているということですが、そもそも観光がGDPに占める割合が異なります。県民計算（兵庫県ホームページ）をご覧くださいただければわかりますが、平成30年の速報値で三田市内のGDP470,208百万円に占める観光の割合は4.43%です。</p> <p>提言として、例えば観光業での就業人数や、策定の背景に一人当たり市民所得の伸び（が、伸び悩んでいるのであれば）、若年世代の就職難等のデータを入れるともっと「この計画をたてなければならない」という説得力が増すのではないのでしょうか。</p>	<p>今、観光ビジョンを策定する目的については、「人口減少に負けないまち」を目指す三田市にとって、移住定住促進と同様に交流人口の拡大は重要な課題です。観光施策の拡充はその有効な手段ととらえており、今後の観光施策の指針となる観光ビジョンの策定は喫緊に必要であると考えます。</p> <p>観光がGDPに占める割合について、同様の試算で他市と比較したところ、豊岡市で17.24%、丹波篠山市で13.19%となりました。これに比べ本市は4.43%と確かに大きな割合を占めていないことがわかりますが、だからこそ、この割合を増やしていくことが、これからの三田のまちづくりにとって必要なことであり、ビジョン策定についても人件費を投じて取り組んできたところです。観光を推進し、交流人口を増やし観光消費額をあげ、まちの認知度をあげていくことは、まちの活性化に必要なだと考えるからです。</p> <p>なお、観光業の就業人数や市民所得の伸び、若年世代の就職の状況等については、観光ビジョン検証時の参考とします。</p>
②	<p>[p3 (3)観光ビジョンにおけるSDGsの取組み]</p> <p>観光ビジョンにおけるSDGsの取組みとありますが、一部の企業にとってCSRの取組みの一環としてSDGsを意識することは一定理解できるのですが、市民目線では、漠然としすぎていて分</p>	<p>観光ビジョンとSDGsの関係性について、国は、2015年9月の国連サミットで採択された国際社会の共通目標SDGsの達成には、全国の自治体及びその地域で活動するステークホル</p>

<p>かりにくいところがあるように思います。「なぜ観光ビジョンにSDGsを位置づけるのか？（なぜこの6つのゴールを選んだのか）」「観光がどのようにSDGsに貢献できるのか？（観光ビジョンにおけるどのゴールと関連づけられているのか）」を十分に説明することで、多くの市民・事業者が、観光ビジョンに基づく取組みがSDGsの取組みと身近な関係にあることを認識できるきっかけになるのではないのでしょうか。</p>	<p>ダーによる積極的な取組みの推進が不可欠であるとし、各地方自治体に対し、各種計画等にSDGsの要素を最大限反映することを推奨しています。</p> <p>三田市政においてもSDGsを推進しており、観光ビジョンにおいても意識して取組みます。</p> <p>今回、17のゴールの内、観光振興に関係すると思われる6つの項目を選定しました。</p> <p>例えば、「8働きがいも経済成長も」については、観光ビジョンの目標数値である「観光消費額」を増加させることで地域内でよりよいサービスが提供できるようになり、地域の経済成長にもつながります。このことは三田市の観光振興にかかわる皆さんが働きがいをもって仕事をされることにもつながります。</p> <p>また、事業者・団体・市民・行政が協力しながら観光ビジョンを推進していくことは、「17 パートナリシップで目標を達成しよう」に合致します。</p> <p>他の項目についても、SDGsと強い関係性があるものを選定しました。</p> <p>今後の具体的な企画を進めるにあたって関係者と共有し取組んでいきます。</p>
---	--

3 三田市の観光の現状と課題

	意見の内容	市の考え方と対応
③	<p>[p8～ ア 観光入込客数の推移]</p> <p>平成 27 年度～令和元年度までの観光入込客数の分析をされていますが、コロナ禍により公園など屋外活動などの利用者が増加しているように見受けられます。コロナ禍を境に人々の生活様式・余暇の楽しみ方も明らかに変化しているものと思われるので、可能であれば、令和2年のデータも併せて分析されたほうがより深い分析</p>	<p>ご指摘のとおり、コロナ禍で公園や屋外活動施設などの利用者が増加し、また、コロナ禍を境に人々の生活様式・余暇の楽しみ方も明らかに変化しています。</p> <p>観光入込客数は社会要因により大きく変動するものであり、昨年来の新型コロナウイルスによる社会環境の変化も大きな変</p>

	<p>をできるのではないのでしょうか。(注釈をつければ確定値にこだわる必要はないと思います)</p>	<p>動要因です。しかし、令和2年度は社会経済活動がほとんど停滞していたこと、また、感染の状況も見通しがつかず、未だ収束が予測できない状況にある現状では、令和2年度のデータの推計は必ずしも精度の高いものになるとは考えられません。</p> <p>ただし観光入込客数の目標値設定など、現状を踏まえて予測すべき指標には可能な限り折り込んでいます。</p>
<p>④</p>	<p>[p12～ (3)課題]</p> <p>このビジョンにおけるSWOT分析について疑問があります。当然ご存じであると思うのですが、SWOTは、単に「現状をまとめる」ためのツールにすぎません。SWOT分析の結果が施策に反映されるためにこの分析を用いていると思うのですが、その中で記載されている「弱み」、政策(基本理念、基本方針)は以下の通りです。</p> <p>公共交通機関での活動エリアが限定、観光資源が活かされていない、小規模・点在で連携不足、周辺の有名観光地の集客力を活用しきれていない、市民が三田で楽しみきれていない、情報整備と発信力が弱い、ブランド力と知名度が弱い、住宅地のイメージが強い</p> <p>一方、その後の政策については、基本理念が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村・市街地・ニュータウンからなるまちの魅力を、それぞれの背景にある重層的な歴史や生活文化をふまえて、三田ならではの多様なストーリー性のあるコンテンツに磨き上げます ・チーム三田で協働し、地域の魅力をつないで発信します ・三田ファンを増やし、まちの活性化を図ります <p>基本方針が以下の通りです。</p> <p>見つめる [魅力あるコンテンツづくり] 広がる [地域の魅力を発信] つながる・育む [ネットワークづくり、人材育成]</p> <p>疑問が二点あり、一点目はSWOT分析の「公共交通機関での活動エリアが限定」「市民が楽しみ切れていない」が、政策に全く生か</p>	<p>「SWOT分析の『公共交通機関での活動エリアが限定』が、政策に全く生かされていないこと」についてですが、ご指摘のとおりSWOT分析は現状を把握するためのもので、観光ビジョン検討会議の議論をふまえ、三田市の現状として「公共交通機関での活動エリアが限定」と分析しました。</p> <p>今後、観光コンテンツを造成するなかで公共交通機関の利用を取り入れるなど、具体的な取組みについても検討します。</p> <p>『市民が楽しみ切れていない』が、政策に全く生かされていないこと。』についてですが、観光ビジョンでは、来訪者だけではなく市民も対象として取組みを進めていくこととしています。三田の観光振興、観光による賑わいのあるまちづくりには、来訪者だけでなく市民が自ら三田の魅力を楽しむことが重要であると考えためです。</p> <p>『弱み』の中に、『コンテンツ不足』という項目が無いのに、政策にはコンテンツの造成が基本理念、基本方針の一つになっていること』についてですが、弱みとして認識している「小規模で点在する」観光資源をつなぎあわせることで、上質のコンテンツに磨きあげることが必要と考えています。市民が市内にあるコンテンツを何度も楽しみ、そして来訪者が三田市を繰り返し訪れたいくなるためには、既存のコンテンツを磨き上げるこ</p>

	<p>されていないことと。二点目が、「弱み」の中に、「コンテンツ不足」という項目が無いのに、政策にはコンテンツの造成が基本理念、基本方針の一つになっているということです。</p> <p>この点について見解を伺えればと存じます。</p>	<p>とと同時に、新たなコンテンツを常に造成していくことが最も重要なことだと考え、この取組みを進めていくことを基本理念、基本方針に掲げています。</p>
⑤	<p>[p12～ (3)課題]</p> <p>三田市の観光の強み・弱みについてSWOT分析をされていますが、その手順について「①三田市観光ビジョン検討会議において分析」→「②別途実施したアンケート結果と比較して①の分析結果を確認(追認)」となっており、三田市観光ビジョン検討会議構成員の方々の主観的な分析結果となっている部分があるのではないのでしょうか。(本来、観光入込客数や観光消費額などの数値データやアンケート結果を踏まえて、検討会議等で分析すべきかと思えます。)</p>	<p>観光ビジョンのSWOT分析については、観光入込客数や観光消費額などの客観的な数字の分析に加えて、三田市の観光振興に携わる様々な分野の方々からの実態や経験に基づく意見も参考に分析しています。これは、客観的なデータだけでなく、主観的な考え方の中にも、三田市の現状を分析し、今後の指針策定の大きな参考になることもあるとの考えによるものです。</p>

5 基本理念、6 基本方針

	意見の内容	市の考え方と対応
⑥	<p>[p16]</p> <p>「チーム三田」、唐突ですね。チーム三田は、市民・行政・観光協会・事業者の4者から構成されていますが、唐突に感じる理由として、審議会のメンバーに「市民」が入っていない上に、アンケートも41名にしか聞いていない。市民以外の「行政・観光協会・事業者」で話し合った内容で、いきなり市民を入れられてもびっくりしますし、これも施策と関連しますが、SWOTの弱みの中に「市民が楽しみ切れていない」という断定があるのに、施策に「では、どうやったら市民が楽しめるのか?」という視点がない。そもそも論として、「市民が楽しみ切れていない」という根拠がどこにあるのかもわからない。アンケート以外でも、市が持つデータで例えば市内キャンプ場における市民の人数や、アウトレット等における三田市民の推定人数など、何らかのデータは無いのでしょうか。「本当に市</p>	<p>観光ビジョン検討会議は、三田市の観光振興に携わる様々な分野の方々から実態と経験に基づく意見を率直にお聞きする場として設置したものであり、メンバーからは事業者・団体としての立場だけでなく、市民としてのご意見もいただいております。</p> <p>ここでいう「チーム三田」は、観光協会をはじめ観光業に携わる事業者や関係団体はもちろん、市民など三田市の「観光まちづくり」に関わる全ての主体と行政が、共通の目的に向かって取り組むことを記載しているものです。</p> <p>どうやったら市民が楽しめるのかについては、「7施策体系」に記載のとおり、ストーリー性のある三田らしい観光コンテンツを磨き上げ、市民に対しても地域の魅力を発信することで、</p>

<p>民が楽しみ切れていないのか」というデータが不足している上、分析した結果を活かしていない（市民が楽しむことができるものが含まれていない）のに、唐突に「チーム三田」の一員に入れられても、びっくりします。</p> <p>また、反論として各種団体の代表の方が審議会に入っている中でたまたま「三田市民である」ということが考えられますが、立場としてその方は「事業者」という立場で参画されています。各種市民協議会、PTA等いくらでも市民代表に入っただくことは可能であったと考えます。</p> <p>蛇足ですが、相手をびっくりさせることは、クレームにつながる一番の原因となりますので、唐突であると感じさせないほうが良いと思います。</p>	<p>これまで以上に市民も三田で楽しんでいただけるような取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>また、市内キャンプ場における市民の人数等の活用については、観光ビジョンの検証時の参考とさせていただきます。</p>
<p>⑦ [p16～p17]</p> <p>基本理念について、「(1) 農村・市街地・ニュータウンからなるまちの魅力を、それぞれの背景にある重層的な歴史や生活文化をふまえて、三田ならではの多様なストーリー性のあるコンテンツに磨き上げます(2) チーム三田で協働し、地域の魅力をつないで発信します(3) 三田ファンを増やし、まちの活性化を図ります」とありますが、これらは理念というよりは方針に近い内容であり、一方で、基本方針で「基本方針Ⅰ 見つめる〔魅力あるコンテンツづくり〕、基本方針Ⅱ 広がる〔地域の魅力を発信〕」「基本方針Ⅲ つながる・育む〔ネットワークづくり、人材育成〕」と基本理念と同様の内容をまとめたものとなっておりますので、基本方針としてこちらに整理されたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。</p>	<p>基本理念と基本方針についてのご意見ですが、基本理念は、観光ビジョンの基本的な考え方をより分かりやすく明示するために、具体的な記述に努めました。</p> <p>基本方針は、「三田市が目指す観光振興の姿」を実現するための具体的手法の柱を明確にするために端的な表現としました。</p>

7 施策体系

	意見の内容	市の考え方と対応
⑧	[p17～ (1)基本方針Ⅰ]	

<p>地域振興を通じて異業種のイベント等をゴルフ場に誘致することで、ゴルフ場の認知度が上がり、またゴルフ場への親しみ感が高められ、それによりゴルフ場に対する地域住民の意識の変化を生むことで、ゴルフ市場に新しい発想と創造の風が吹きこまれると思います。ゴルフ場に新たなビジネスモデルが構築されるかもしれません。</p> <p>例えば、コースを7周ランニングすれば交通規制がないマラソン大会となり、芝の上をウォーキング、ノルディック・ウォーキングをして自然を満喫する、キャンプして夜景を楽しむ、三田市内外の小学生の課外授業でゴルフの体験を通して、社会見学や人との接し方を学ぶなど色々な取組みが考えられます。</p> <p>ゴルフは高齢者の健康促進（認知症予防）に有効とされ、ジュニアには「他人への思いやりや人生観」を育てる、そして、人への思いやりを大切にするゴルフは心を豊かにすることが出来ます。</p> <p>この利点を生かしてスポーツによる地域活性化推進事業に結びつけばと思います。</p>	<p>今後、三田の観光振興におきましては、事業者・団体・市民・行政それぞれが連携することで、これまでにない新たな魅力やビジネスを生み出していきます。</p> <p>ご意見と同様、市もスポーツによる地域活性化が有効な取組みの一つと捉えています。</p> <p>ご提案のゴルフコースでのマラソン大会、ウォーキング、ノルディック・ウォーキングや小学生の課外授業との連携などについても、多様な主体と連携しながら、従来の考え方に捉われず新たな発想で検討を進めます。</p>
<p>⑨ [p19～ (2)基本方針Ⅱ]</p> <p>8言語で観光情報の発信に取り組む「モバイルスマートタウン推進財団」というところが東京にあります。同財団が多言語観光情報サイト「ガイドア」というのを展開しています。「ガイドア」は日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、インドネシア語、タイ語で情報が発信されています。このサイトは自治体が「ガイドア」に情報提供をするが費用が掛からないのが利点。併せて緊急時の情報提供もしています。兵庫県内では加西市が導入。三田市も民間事業所のサービスを活用しながらインバウンドへの対応をすればよいのではないですか。</p>	<p>多言語情報発信による在住外国人等の新たな誘客や、インバウンドの回復を見据えた訪日外国人向けの情報発信は重要なことだと考え取組みを進めています。三田市でも広報誌「広報さんだ」に掲載された情報を、「カタログポケット」という民間サービスの多言語対応アプリを使い、10か国語で表示することが可能です。</p> <p>多角的に情報発信を行うためにも、様々な民間事業者・団体との連携も検討し、ご提案の内容についても、情報発信ツールの一つとして今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>⑩ [p19～ (2)基本方針Ⅱ]</p> <p>パスカルさんだはコロナ渦の中、市内のみならず市外のお客様が</p>	<p>パスカルさんだは、豊富で安全な食を提供する場として根強</p>

	<p>多くなってきたことをここ数か月実感。召しませ物産コーナーのチラシ等も持ち帰る方も多く見られました。また在住外国人もよく買い物にいられていることもあり、情報発信には最適と思われます。場所は悪いがスタッフが努力すればよいと思います。</p> <p>顧客心理としては、買い物や日常的に行く場所で自身が望む情報があればお得感を感じます。事業所と連携協定を結び、情報を自分の手でとってもらえる取組み(しくみ)は必要だと思います。たとえば、子ども参加型なら子育て支援関係や子ども関連の事業所(洋服店、スポーツクラブ、ドラッグストア、病院など)。スポーツクラブでの情報提供は非常に有益と思われます。特に年代とわず、1日の集客数が多いので情報が目につきやすいと思います。観光だけでなく市政情報を提供するうえでも有益ではないですか。</p>	<p>い人気があります。</p> <p>パスカルさんなどの集客力のある場所での市政情報の提供については、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>
⑪	<p>[p20～ (3)基本方針Ⅲ]</p> <p>持続可能な観光経済を推進していくうえで観光協会はなくしてはならない存在です。観光協会はいわゆる事務だけをしているのではなく、事業の企画、運営、観光案内業務、ボランティアの人材育成など多岐にわたります。事業によっては関係各所との連携を遂行する役目もありコーディネーター的要素の業務も行っています。</p> <p>観光協会として収益をあげる努力は必要ですが、上記のようなことを踏まえたうえで三田市の観光経済を担える様々なスキルや経験を持った良い人材を確保するためにも、市から観光協会への補助を拡充すべきです。</p>	<p>三田市観光協会が多岐にわたる役割を担っているということは、ご意見のとおりです。様々な観光協会の業務を支える人材の確保は重要なことですので、今後もより一層三田市観光協会との連携を深めながら、三田市の観光振興と観光によるまちづくりに取組みます。</p>
⑫	<p>[p20～ (3)基本方針Ⅲ]</p> <p>今回の三田市観光ビジョン検討会は、異業種の各関係団体や三田市民の意見を吸い上げる意見交換会の場を設けるなど三田市は新たな取組みをされ、強い熱意を感じました。</p> <p>この取組みは三田市の発展を考えるうえで大きな礎になると確信いたします。今まで見過ごされていたものを再発見し、市民と共</p>	<p>観光ビジョン検討会議では、様々な立場の方からのご意見をお聞きし、新たな連携の可能性について検討しました。今後は、多様な主体による連携を具体的に実現することで、三田市の新たな観光の魅力創出に努めていきます。</p> <p>また、三田を訪れる方々に、思いやりをもって接することは、</p>

<p>に育てて観光の振興に繋げることは素晴らしいことだと感じます。</p> <p>3月に三田市の新しい観光ビジョンが作成されるとお聞きしております。</p> <p>三田市内観光産業の各関係団体が持たれている特色を生かして、それぞれが「人への思いやり」をもって訪問客にサービスすることで、訪れる人たちに喜びを与えるまちづくりが望まれます。「人への思いやり」が観光の目玉を創るのかもしれない。</p> <p>新たな三田市観光ビジョンの下、三田市がリーダーシップを発揮され、三田市民と各関係団体との強い協力体制を創り、三田市の観光振興を目指していただきたい。</p> <p>近い将来に「安心・安全で住みよいまち三田」に多くの観光客が訪れる「観光のまち三田」が生まれることを切に望んでおります。</p>	<p>来訪する観光客のみならず、事業者を含めた市民にとっての喜びにもつながるものと思います。ご意見のとおり、「人への思いやり」「人々が心豊かに過ごせるまち」を三田ならではの特色としてまいります。</p>
---	---

8 観光ビジョンの推進

	意見の内容	市の考え方と対応
<p>⑬ [p21 (1)目標数値]</p> <p>計画策定背景、目的には、国や県の動向が記載されており、特に県の観光ビジョンに多くの記載を割いている一方で、例えばK P Iとして設置している観光入り込み客数は、県が120%増を目標としているのに対し、三田市は約106%増です。計画策定の根拠としている一方で、観光入り込み客数の数値がかなり低いのは、どういった分析によるものでしょうか。また、これは、策定根拠にも通じる場所ですが、K P Iの観光消費額による増は、市内総生産がH30(最新値)のままであると仮定した場合、観光が占める割合が現在の4.43%であるのが4.68%へ、0.25%増をめざすものになっています。この増が市に与える影響が、策定する理由につながると思うのですが、どうつながるのでしょうか。目標値が達成すると、雇用がこれだけ増えるである、もしくは国や県の目標にこれだけ貢献で</p>	<p>観光ビジョンの目標値の設定については、国や兵庫県の動向をふまえると同時に、本市の地域性や将来の目標像に基づき算出する必要があり、国や県の数値をそのまま適用しているものではありません。</p> <p>三田市観光ビジョンの観光入込客数の目標値が、兵庫県と比較して低い数値となっているのは、本ビジョンは新型コロナウイルスの影響を勘案して設定しており、一方、兵庫県の目標値は新型コロナウイルス感染拡大前の状況に基づき設定されているためです。</p> <p>観光ビジョンに基づき様々なアクションプランを実践し、観光消費額の増加を目指すことは、市内の宿泊、交通、飲食関係事業者にも大きな影響をもたらすものであり、まちのにぎわい</p>	

<p>きる、といった策定背景や目的にどう通じるのかが不明です。 策定目的が国や県の動向であるのであれば、国や県の増加率に合わせる、または合わせられないのであればその理由を記載する必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>と活性化につながるものだと考えます。 ※観光消費額の数値が更新されましたので、最新値を反映させます。</p>
--	--

参考資料

	意見の内容	市の考え方と対応
⑭	<p>[p22] 三田市観光ビジョン検討会議構成員 これも、そもそもなんですが・・・座長と副座長が三田市役所？の方であるとお見受けしますが、これは、計画を策定するための審議会として、中立性に欠けるのではないのでしょうか。一般的に、第三者的な立ち位置の方、具体的には学者や新聞社の方など、が座長、副座長になられるほうが良いのではないのでしょうか。 施策に大学や高校と連携した観光人材の育成というものがありました。この審議会には関西学院大学の方も高校（県立・私立問わず）の方も入っていないため、場当たりのつか総花的な施策として、市では関与できないにも関わらず、高校大学における観光人材の育成といった施策を掲げているように見えます。 せっかく市内に大学があり、また、県内には県立大学の観光大学院が豊岡にできるということなので、そういった方が座長になっていただいているほうが、「中立的に計画を策定したのだな」という印象になります。座長が市役所の人になるというのは、まさに「手前味噌」の計画という印象を持たれても仕方ないのではないのでしょうか。</p>	<p>今回の観光ビジョンの検討会議は、三田市の観光振興に携わる様々な分野の方々から実態と経験に基づく意見を率直にお聞きする場として設置したものであり、座長、副座長の主な役割は会議の進行を行うことでした。また、中立性を確保するために、全国的な観光の動向や観光コンテンツの造成など幅広い知見を有する観光業の専門家に、アドバイザーとして参画いただきました。 なお、「7 施策体系」に記載した「大学や高校と連携した、観光などに関心を持つ若い人材の育成」につきましては、既にこれまでから市内高校の授業と連携し、高校生の視点で三田の観光振興について考えていただくといった取組みを行っております。今後も引き続きこうした高校生や大学生の視点を生かした取組みを拡充していきたいと考え、主な取組みの一例として掲げているものです。</p>